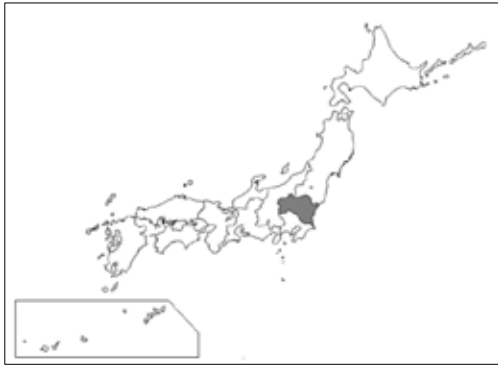


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

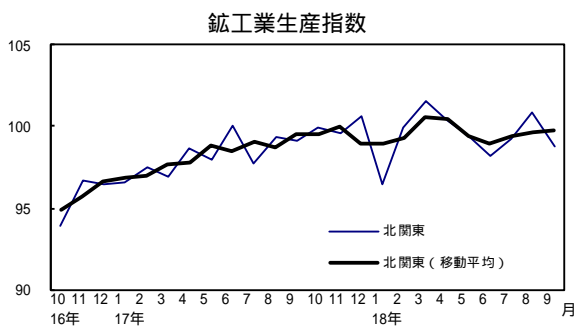
前回からの主要変更点

なし

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

7 - 9月期には、「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、増加した。「電子デバ、電気・情報通信」は、減少した。「輸送機械」は、増加した。「汎・生産・業務用機械」は、減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、減少した。



(備考) 1. 2010年=100、季節調整値。北関東の最新月は速報値。

2. 北関東の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

3. 北関東は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

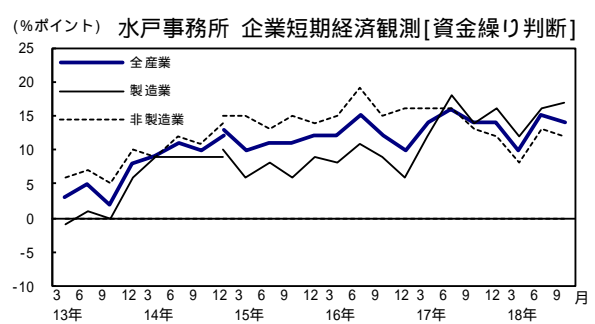
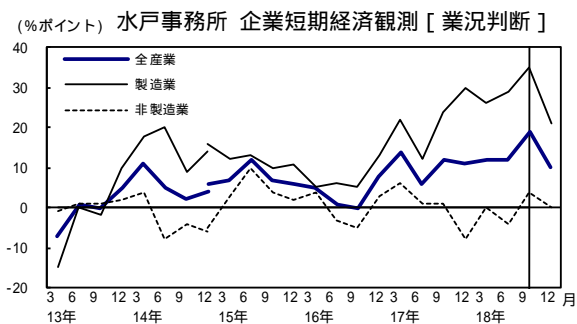
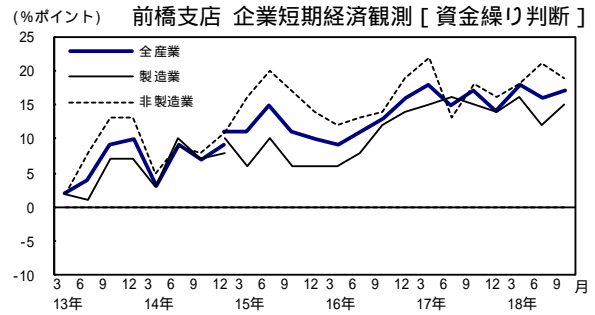
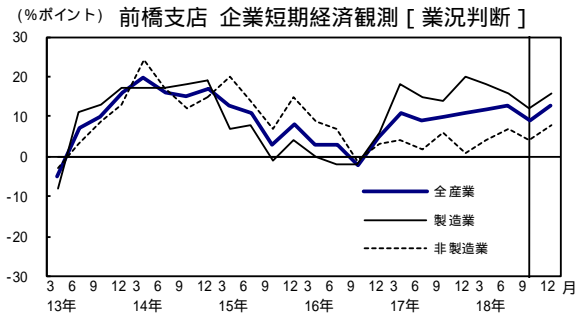
	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
石油・石炭、化学、プラ製品	19.8	2.3	2.4	6.3	1.8	1.7
電子デバ、電気、情報通信	19.5	0.1	0.7	1.1	0.4	2.5
輸送機械	18.4	2.3	1.4	2.2	2.2	3.1
汎・生産・業務用機械	16.1	0.5	1.2	0.7	6.0	8.0
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	13.0	1.8	1.8	1.6	1.0	1.9
鉱工業	100.0	0.1	0.2	1.0	1.6	2.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7 - 9月期、9月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの。

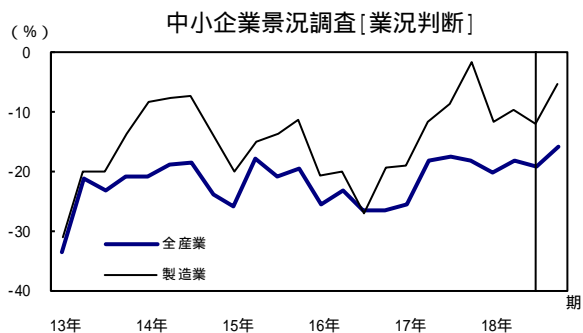
(2) 日銀短観における前橋支店管内の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。
水戸事務所管内の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。2018年12月は予測。
2014年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
2014年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。2018年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [企業動向関連 (現状)]

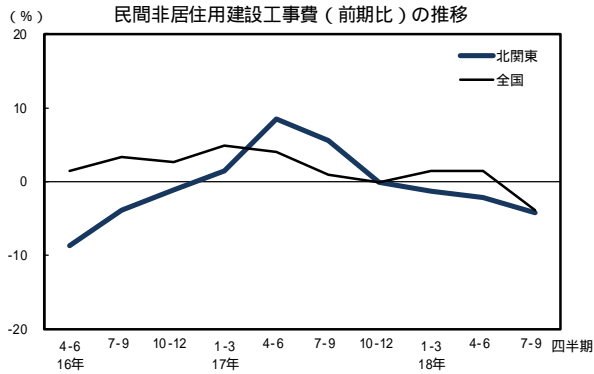
「この数か月、取引先、受注量、販売量等は余り変わっていないので、どちらとも言えない (輸送用機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 北関東

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に減少している。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)



	2017年度実績	2018年度計画
全産業		
前橋支店	2.6	7.0 (0.3)
水戸事務所	7.8	34.4 (5.6)
製造業		
前橋支店	1.1	5.8 (0.2)
水戸事務所	11.1	45.7 (2.8)
非製造業		
前橋支店	8.8	11.9 (0.8)
水戸事務所	0.9	13.8 (12.7)

(備考) 1. 季節調整値。

2. 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

(備考) ()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.4%増、8月は同0.9%減、9月は同0.2%減となった。

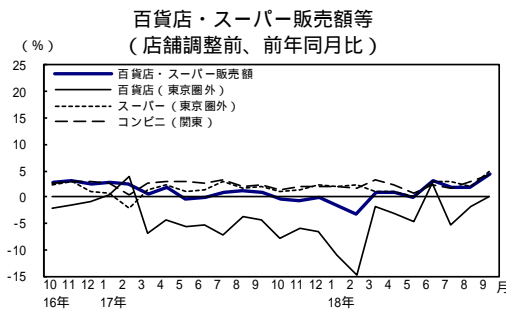
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、衣料品等の不調により、前年を下回った。8月は、身の回り品等の不調により、前年を下回った。9月は、前年に対し横ばいとなった。

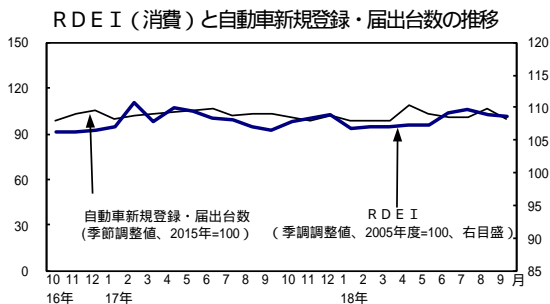
スーパーは、7-9月期は、身の回り品、その他商品等が不調であったものの、飲食料品が好調だったことにより、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「前年同時期と比べて、今月の売上は伸びている (旅行代理店)」などの回答がみられた。



	2018年7-9月	2018年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.9	0.4	0.9	0.2
百貨店・スーパー(*2)	2.7	1.9	1.9	4.5
百貨店(*3)	2.6	5.4	1.8	0.0
スーパー(*3)	3.2	2.9	2.0	4.9
コンビニ(*3)	2.8	1.6	2.8	4.2
乗用車(*4)	1.0	0.4	2.7	4.6
(季節調整値)(*4)	1.8	0.1	5.0	5.5



(備考) 1. 季節調整前(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比

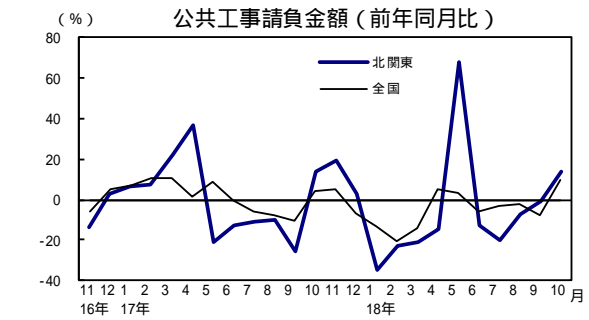
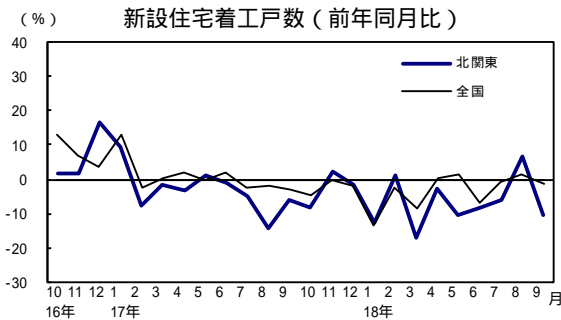
・百貨店、スーパーは、関東経済産業局の東京圏外 (茨城、栃木、群馬、新潟、山梨、長野、静岡) の値。

・コンビニは、経済産業省の関東 (茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡) の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比 (%))

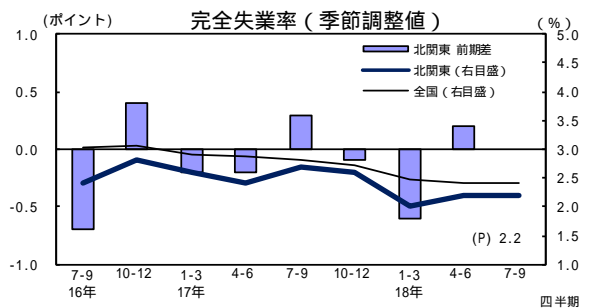
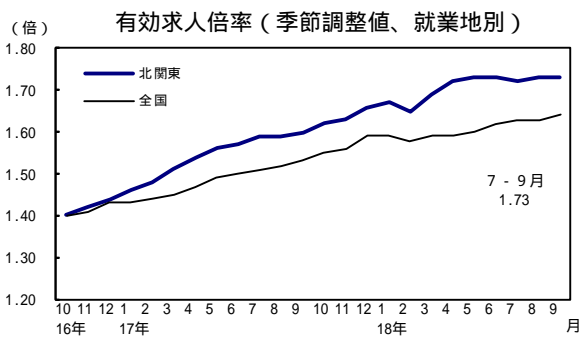
(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。
貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は2018年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前期と同水準となっている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。季節性が認められなかったことから原数値と同じ。
2. 7 - 9月期の値は暫定値。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[雇用関連(現状)]

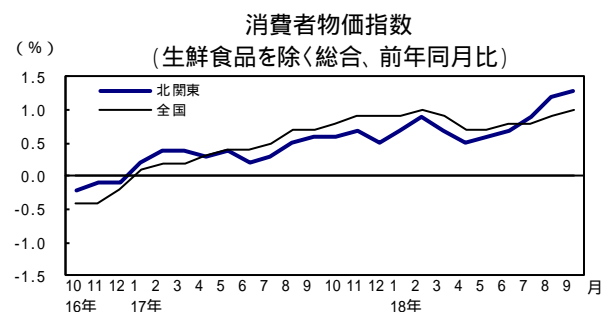
「新規求人数は各月で比較するとばらつきはあるが、3か月でみると1.7%増、有効求人数は1.4%増と増加傾向にある。依然として事業所の採用意欲は高い状態が続いている(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数はおおむね横ばい、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	2017年 10-12月	2018年 1-3月	4-6月	7-9月	2018年10月
倒産件数 (前年比)	70 26.3	94 4.4	85 2.4	75 1.3	22 12.0
負債総額 (前年比)	70 61.9	249 50.4	104 21.2	102 49.6	39 1.7



(備考) 北関東は内閣府にて算出。

(3) 北関東

